

〔曲 名〕 Ungarische Rhapsodie

ハンガリア狂詩曲

〔曲 種〕

〔作曲者〕 D.Popper

ダーヴィト ポッパー作曲

〔編 曲〕 Jiro Nakano

中野二郎

作者は1843年6月13日プラーハに生まれ、1913年8月7日バーデンに逝いた作曲家でチェロ奏者。プラーハ音楽院でゴルターマン（1824－98）にチェロを学び、ヨーロッパの主要都市で独奏者として成功を収めた。

1896年以来ブタペスト音楽院の教授となり、数多の作品が知られている。

中でも高等チェロ教則本、四つのチェロ協奏曲、タランテルラが著名であるが本曲ハンガリア狂詩曲もその一つ。

大正年年間チェロの名手シコーラが来朝した時のレパートリーにポッパーのガボットがあり絶讃を拍したが、

その頃セノオ楽譜で日本でも出版を見た。

ハンガリア狂詩曲と云えばリストと相場が決っているが、幾多の作曲家により試みられている。

マンドリン畑でもベルルッティのハンガリアの黄昏があり規を一にする。

狂詩曲は民族的色彩を持つものが多く器楽曲に華やかなものが多い。

カラーチェにもナポリ狂詩曲があり、メッツァカーポにもイタリア狂詩曲等がある。

ハンガリアは地理的にはヨーロッパの一部であるが、

歴史の上からは東方と北方の民族が侵入して入り乱れているが、文化の上にも著しくそれが見られる。

所謂ジプシー音楽として今日残っているものは主として下層階級の人たちによって保たれてきたもので、

之が文化水準の高い西欧の人たちの注目するところとなり新しい衣を纏（まと）って我々の耳を楽しませているものが大半である。

本曲は元来はチェロ独奏曲であるが、かねてからマンドリンでやってみたいと思っていたもの。

1972年 7 月28日発行

マンドリン古典合奏曲集第 1 集より